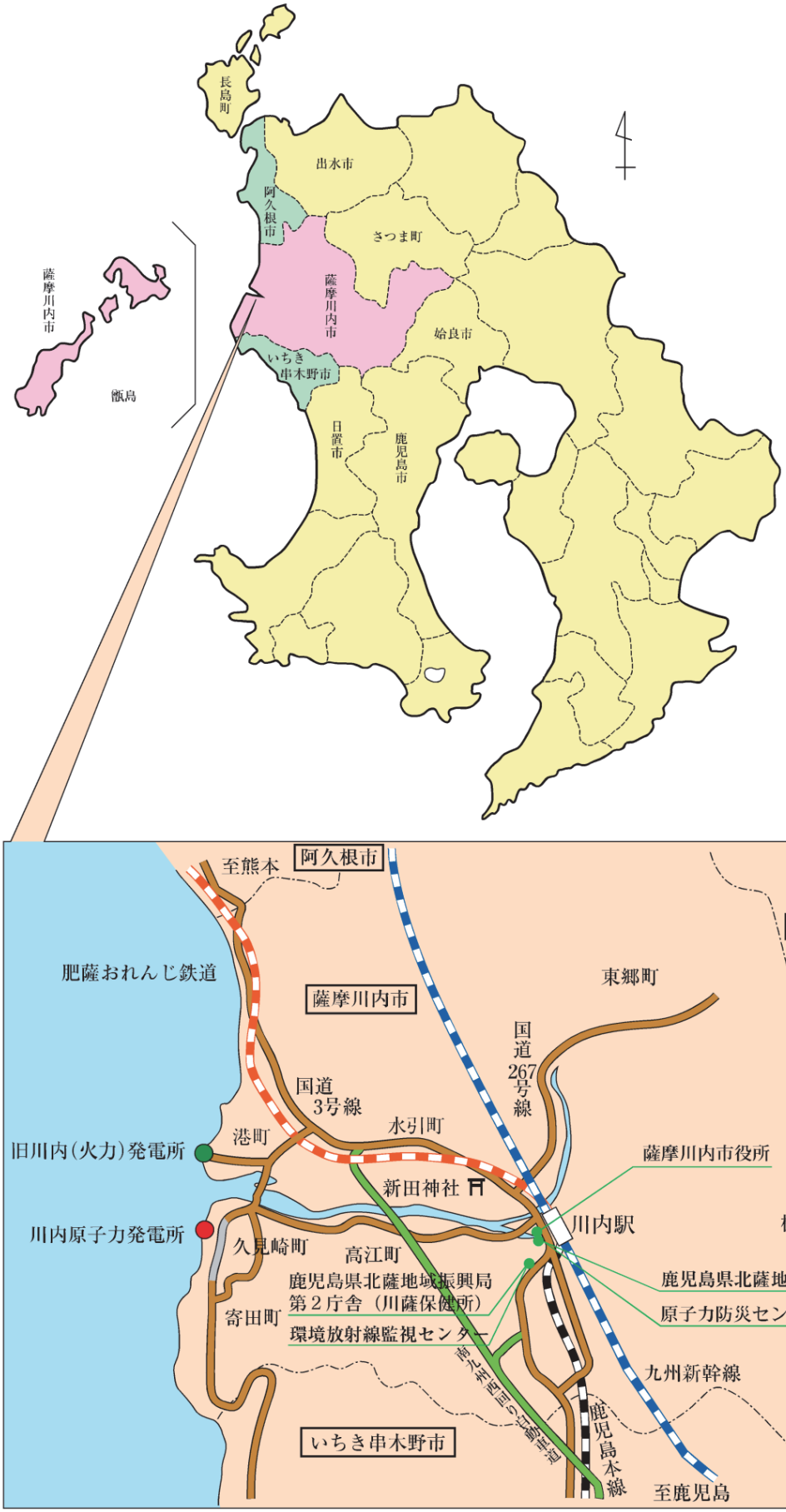
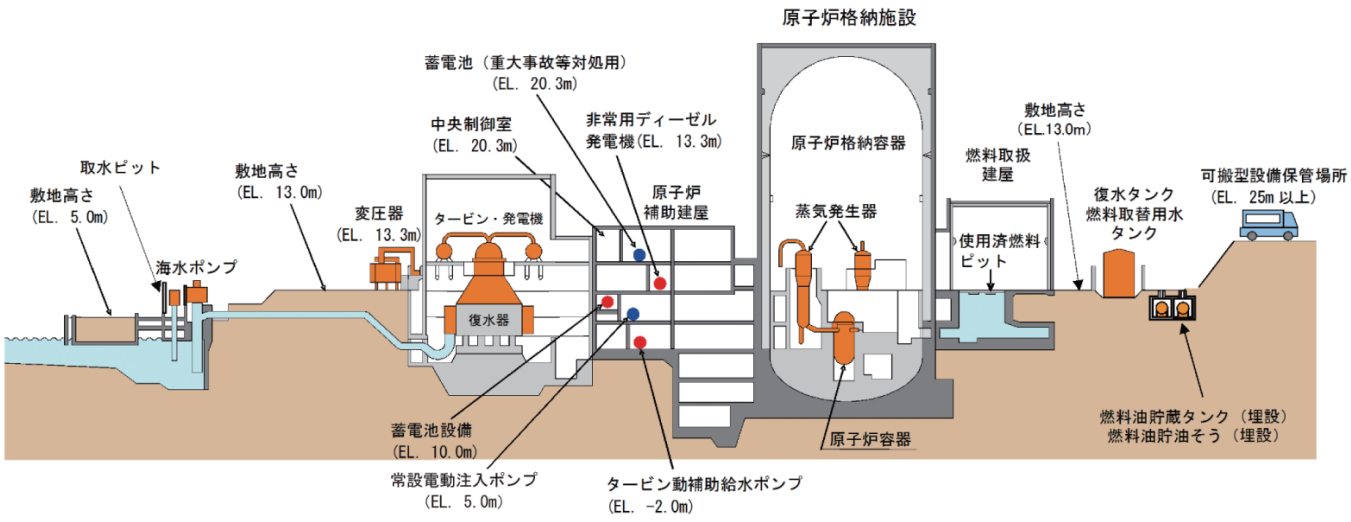
Ⅲ　参　考　資　料

Ⅲ－１　川内原子力発電所位置図



＜発電所全体配置図＞

＜発電所断面図＞



Ⅲ－２　川内原子力発電所の概要

川内原子力発電所は，１号機が昭和59年に全国で27番目，２号機が昭和60年に全国で32番目の商業用原子炉として営業運転を開始している。

項目＼ユニット		１　号　機	２　号　機
所　在　地		薩摩川内市久見崎町字片平山1765番地3	
敷地面積		約145万m^2（埋立面積約10万m^2を含む）	
電気出力		89万kW	89万kW
原子炉	型　　式	加圧水型軽水炉（ＰＷＲ）	
	熱　出　力	266万kW	266万kW
燃料	種　　別	低濃縮（約4.1%，約4.8%）二酸化ウラン	
	装　荷　量	約74トン （燃料集合体157体）	約74トン （燃料集合体157体）
冷却海水量		約64m^3/ｓ	約64m^3/ｓ
主要経緯	川内市議会・誘致決議	昭和39年12月15日	－
	建設計画発表	昭和45年 4月21日	昭和52年 3月29日
	電源開発調整審議会	昭和51年 3月12日 （第68回）	昭和53年 7月14日 （第75回）
	原子炉設置許可	昭和52年12月17日	昭和55年12月22日
	着工（基礎掘削開始）	昭和54年１月24日	昭和56年５月７日
	安全協定調印	昭和57年６月12日	
	初臨界	昭和58年８月25日	昭和60年３月18日
	初送電	昭和58年９月16日	昭和60年４月５日
	営業運転開始	昭和59年７月４日	昭和60年11月28日
建設費		約2,800億円	約2,300億円

Ⅲ－３　原子力防災訓練当日のコメント（ぶらさがり取材）

１　知事

今年度の原子力防災訓練は，国の原子力総合防災訓練と一体となり，２月１４日から１６日の３日間にわたり，国やその他の関係機関，そして住民の皆様方にもご参加いただき訓練を行うことができました。

今回の訓練は，これまでの訓練に加えまして，国の機関との手順の確認，連携の強化，そして住民の皆様の防災意識の向上，こういったことに一定の効果があったと思っております。

また，能登半島地震の教訓として，半島という地理的な特性もあって道路が通行できなくなったりあるいは通信関係が途絶をしたり，そのような中で孤立集落ができたりというようないろんな課題があったと思います。

そのようなことを踏まえて，孤立した集落の住民避難として，ヘリや船舶での避難，あるいは倒壊した家屋からの救出をしたり，道路啓開をして避難道路を確保したりというような部分について，今回の訓練の中でも盛り込んだというふうに思っております。

その他にも，自衛隊を含めた実動機関による孤立地区発生を想定した応急架橋訓練やヘリによる火災消火訓練などいろいろな訓練を実施できたと思っております。

訓練というのは１回で終わりということでありませんので，いろんなバリエーションを考慮しながら，今回の訓練におけるいろんな課題についても，今後に活かしていきたいと思います。